

豆田遺跡発掘調査現地説明会資料

平成23年(2011年)2月27日(日) 13時30分～



調査地周辺図

これまでに発掘調査で見つかった水路跡を示しています。薄水色の部分が町坪構居の堀の推定地です。



土 錘

中世のものとしては大型です。

土 鍋

いろいろなタイプがあります。

主な遺物は、ほとんどが破片でしたが備前焼のすり鉢・土鍋のほか、土錘・銅銭が一枚出土しました。これらは、室町時代の人々の生活を知る手掛かりとなります。

姫路市埋蔵文化財センターでは、英賀保駅周辺土地区画整理事業に伴い、平成12年度から埋蔵文化財の発掘調査を継続しています。

このうち、豆田遺跡(英賀保駅周辺遺跡第3地点を名称変更)では、これまでに弥生時代の川跡や中世の集落跡が見つかっています。特に中世のものとしては、町坪構居の堀跡も見つかっており、堀の内側では井戸や掘立柱建物跡の存在が確認されています。

このたび、調査がほぼ終了した豆田遺跡を遺跡活用の一環として公開いたします。

姫路市埋蔵文化財センター

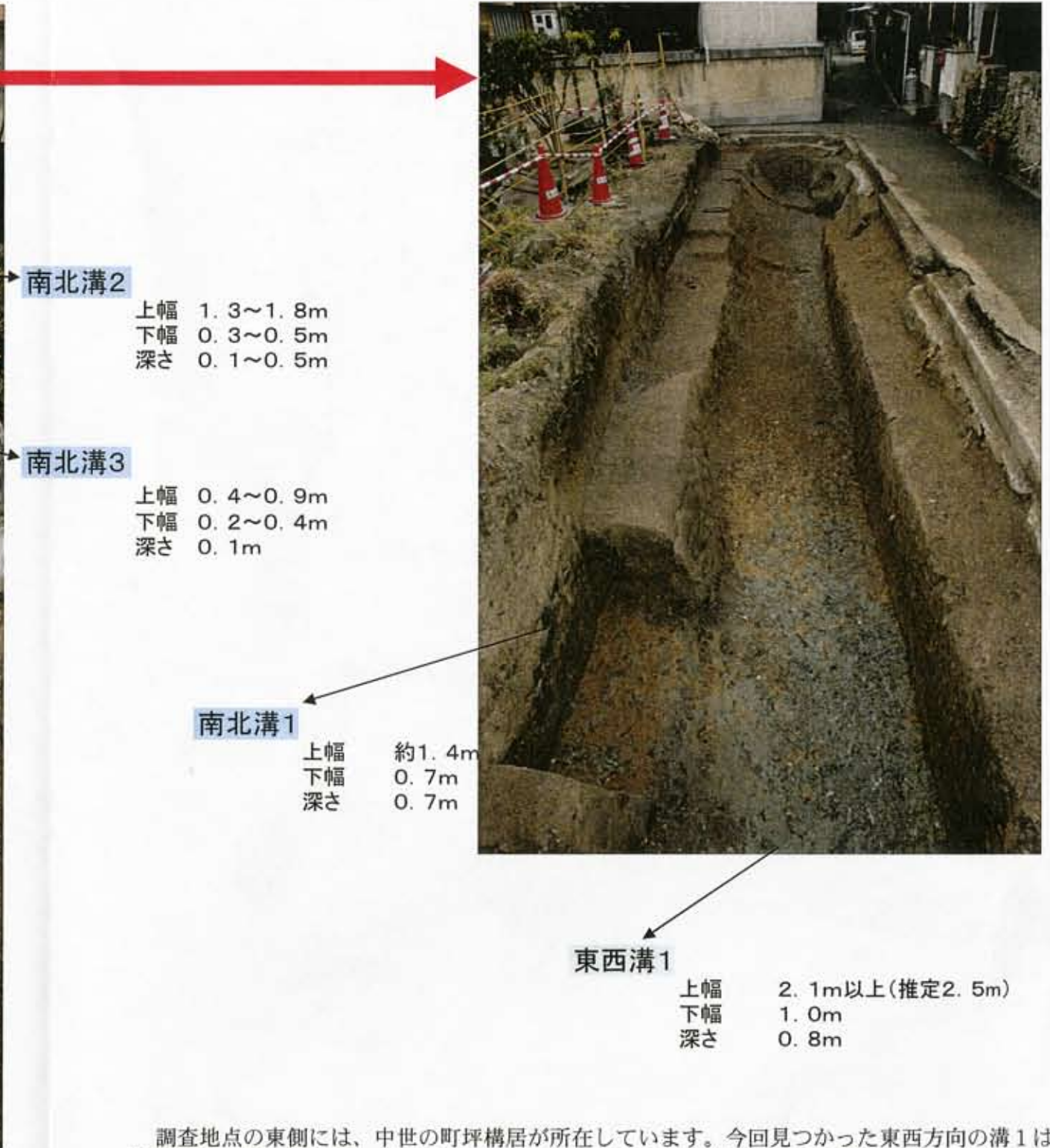
豆田遺跡(英賀保駅周辺遺跡第3地点)発掘調査 現地説明会資料 平成23年(2011年)2月27日 〒671-024 兵庫県姫路市西郷町坂元414番地1
姫路市埋蔵文化財センター
Himeji City Archaeological Research Center
TEL (079)-252-3950 FAX (079)-252-3952
URL <http://www.city.himeji.lg.jp/maibun-center/>
E-mail maibun-center@city.himeji.hyogo.jp

豆田遺跡 主要遺構

南調査区 (南から)



北調査区 (西から)



調査地点の東側には、中世の町坪構居が所在しています。今回見つかった東西方向の溝1は、町坪構居の堀の推定地へと延びることから堀であるか、または堀へ水を導くための水路の可能性がります。

今回の調査成果は、当地域の中世集落の構成と変遷を知る上での貴重な資料になるものと考えられます。